

戦略会議・ワーキング
グループが各地を視察

日本風景街道

具体的取り組み 各地で盛んに

景観や自然を大切に した道づくり

景観や自然資源などを大切に作る新しい
概念の道路空間づくり——「日本風景街
道」(シーニック・バイウェイ・ジャパ
ン)をめざす具体的取り組みが、各地で盛
んになってきた。元気で魅力的な先行プロ
ジェクトを発進させる準備も進んでおり、
国土交通省の設けた「日本風景街道戦略会
議」(委員長・奥田碩日本経団連名誉会
長)も支援策などの検討を急いでいる。

日本風景街道は、屋外し、環境整備と情報提供
広告の規制運動からスタートした米国のシーニック・バイウェイ制度がお手本。魅力的な景観、歴史、自然、文化、レクリエーション施設などを巡るルートを通じた観光や地域活性化の取組が盛んに行われている。当初はこの中から、地域資源が特に豊かで、地域の取組意欲の高い20ルート程度をモデルルートに選定する予定だったが、5月の第2回戦略

道の駅も重要な役割



知床で流水ウォーク



阿蘇町の大観峰

ふるさとニッポン●よりみち街道『中越』

新潟県中越地震で壊滅的な被害を受けた、国道291号ルート。
そこはニッポンの原風景が広がる、こころのふるさとでもありました。
このかけがえのない景観を再生し、ふるさとの復興と活性化を促すために、
「よりみち街道プロジェクト」がスタートしました。



呼びかけ、03年から大雪・富良野、支笏洞爺ニセコ、昨年から東オホーツクの3ルートで独自の北海道シーニック・バイウェイを試行中だ。これが訪問客にも地域にも好評で、他地域でも導入希望が増えてきたため、国土交通省が昨年度から制度化に踏み切って導入希望地域を公募。全国から72ルートが名乗りを上げていた。当初はこの中から、地域資源が特に豊かで、地域の取組意欲の高い20ルート程度をモデルルートに選定する予定だったが、5月の第2回戦略

中越地震の被災地 自治体住民が 街道プロジェクト

中でも、新潟県中越地震の被災地で、美しい棚田の景観で知られていた旧山古志村など沿線自治体と住民らによる「よりみち街道『中越』」プロジェクトは、震災復興の新しい方向としても注目を集めている。

「国道291号沿いは、ニッポンの原風景が広がるこころのふるさとだった。かけがえのない景観を再生し、ふるさとの復興と活性化を促したい」というのが趣旨。国土省北陸地方整備局や土木学会、地域団体、NPOなども連携し、シンポジウムや地域ごとの意見交換会、広報誌「棚田通信」への投稿などでそれぞれの思いやアイデアを語り合い、希望を膨らませている。ボランティアサポート、未知普請、歴史街道、道づくり女性会議など、これまでも道にかかわる市民活動が盛んな地域ほど熱意が高まっており、今後の新たな展開が期待されている。

の引き金にしたいとする意向が強いこと、などの傾向が目立ったという。